

【心の鏡を磨く】

先日の全校朝礼では、生徒の皆さんに「**人間関係は鏡である**」という話をしました。鏡というものは、こちらが笑わなければ、決して先には笑ってくれません。自分が仏頂面をしていれば、鏡の中の自分もまた、険しい表情でこちらを見返してきます。

これは、私たちの日常の人間関係においても全く同じことが言えるのではないのでしょうか。

○笑顔で接すれば、相手も自然と笑顔になる

○優しい気持ちで寄り添えば、自分もまた優しさに包まれる

一方で、自分が刺々しい言葉を使ったり、相手を傷つけるような行動をとったりすれば、それはいつか必ず自分のもとへと返ってきます。



相手の反応は、自分自身の姿を映し出しているのかもしれない。「幸せでありたい」と願うのなら、まずは「自分の周りの人を幸せにする」ための行動を意識してみてください。

相手を変えようとするのではなく、まずは自分の表情や言葉から変えてみる。そんな「心の鏡」を大切にできる習慣を、学校全体で育てていきましょう。

生徒の皆さんが、お互いに最高の笑顔を映し出し合えるような、温かな学校生活を送れるよう願っています。

← 鏡の前の方は、どんな表情をしていると思いますか？

【保護者の皆様へ】生徒の送迎と交通安全について

梅雨の季節が近づき、雨の日が増えることが予想されます。天候が悪い日は、お子様の登下校に自家用車を利用されるケースが増える傾向にあります。お子様の健康を思う保護者の皆様のお気持ちは重々理解しておりますが、それに伴う「**路上での乗降**」の危険性について、**改めてご理解とご協力**をお願いします。

路上での乗降が危険な理由

◆ 「ドアの開閉」による接触事故

停車した車のドアを開けた瞬間、後方から走ってきた自転車やバイクが衝突する事故が多発しています。特に生徒が急いで降りようと確認を怠った場合、大きな事故に直結します。

◆ 車の「死角」への進入

自分の家の車から降りた直後、その車の前後に回り込んで道路を横断しようとする、対向車や後続車から生徒の姿が完全に見えなくなります。この「死角」からの飛び出しは、ドライバーが回避しきれない非常に危険なパターンです。

◆ 「無理な横断」の誘発

路上で降車すると、歩道や横断歩道がない場所で道路を渡らざるを得ない状況が生まれます。走行中の車の合間を縫うような横断は、生徒自身の判断ミスを招きやすく、命に関わるリスクを伴います。

大切なお子様の安全を確実に確保するため、**お車での送迎を行う場合は、必ず学校西側の駐車場を利用**してください。路上での乗降は、わずかな時間であっても非常に危険です。生徒の安全を守ることを第一に考え、ルールを遵守していただきますよう、強くお願いします。